



はりま

ライフ

姫路の農事組合法人

「布マルチ栽培」始める

休耕田にシート



田に布マルチのシートを敷き詰める夢米のメンバー＝姫路市夢前町高長

姫路市の農事組合法人「夢米」(内海清人代表)が、稲の種まき作業があった。マルチのシートを敷き詰める作業があった。

「夢米」(内海清人代表)が、稲の種まき作業があった。マルチのシートを敷き詰める作業があった。もみをはさんだ綿「布マルチ栽培」と呼ばれる「布マルチ栽培」と呼ばれる、除草作業が省けるのが特徴。鳥取大の津野幸人名誉教授(セ)が約十年前に開発し、全国約四

十袋で行われている。

同法人は今年、約五千坪で導入。この日、メンバーたちは、ローラーを引いてシートを敷き詰め、田に水を入れて水面に浮かべていった。津野名誉教授も指導に訪れた。

今後、稲の成長を見ながら水を抜くと、根が地中に張り、シートも土に戻るといふ。

内海代表理事は「無農

薬の米作りを目指してきた。今後、徐々に面積を広げ、布マルチ栽培の大産地になりたい」と意気込んでいた。

(大島光實)